

奈良県 大峰山脈・八経ヶ岳(1915m)登山



(弥山からの八経ヶ岳)

期 日 2021年(令和3年)11月5日(金)～1月7日(日)

参 加 石川誠 佳子

行動

11/5日(金)晴

自宅・品川・新幹線・京都・近鉄奈良線極原神宮乗換え下市口・タクシー

11:40 着行者還トンネル 12:00 発・13:20 奥駈道出合 13:28-14:25 聖宝ノ宿跡 14:40・

弥山小屋 16:00 着



朝早く自宅を出て新幹線を乗り継ぎ京都へ。ここから近鉄の奈良線の電車で登山口の下市口駅に、予約して於いたタクシーは、峠を二つ程越えて天川川合に。

ここから川迫川沿いに走る。途中みたらい溪谷の紅葉は今は盛りと素晴らしい。

車道は、一車線と狭く九十九折の道を行者還トンネルに降り立つ。

トンネルを越えて吹く風は冷たく、冬到来を思わせる。

登山口は、近くにあり、登山届をポストに入れて歩き出す。すぐ木製の橋を渡り、川沿いの道から尾根へと移り、小一時間登ると、奥駈道と言われる山上ヶ岳からの縦走路に付く。尾根道はシロヤシオの木々が多く、6月上旬だと花街道となるだろう。

途中弁天の森、聖宝ノ宿跡など越えてゆったりとした尾根道をのんびり歩く。

所々に石仏や石碑が有り、信仰の山をうかがわせてくれる。道はやがて急な山道となり、今晚の宿舎となる弥山小屋に着く。

八経ヶ岳は、行者還トンネルに車を置いて日帰り登山も出来る山なので、小屋に泊まる人は少なく、泊まるとすればツアー登山の方や遠方から



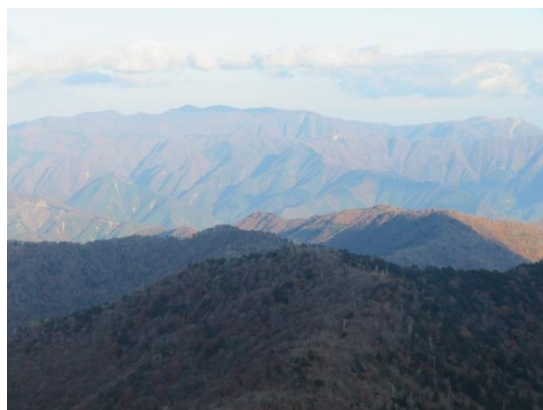
(小坪谷の木製の橋を渡って)



(奥駈道との出合・指導標)

バーだけで寝たが、ストーブが消された後は、シンシンと冷え何度も寝返りを打ち、冬合宿の雪洞の中の方がよほど暖かった思いが残った。

夜は氷点下如何になったのではなかったのかと思い、日の



(昨年登った大台ヶ原方面の山並み)

の人が多いとのこと。

ちなみに弥山小屋は今の天皇陛下が皇太子時代に登山され、小屋も新しく整備し広げられた様だ。

今夜の客は6名大阪からの私より1学年上の大阪から来たご夫妻と、単独の男性2人、私らを含め計6人、天幕は、4張ほど張られていた。

小屋は2食付だが、コロナの影響とのことで布団は無く、シュラフを持参してくれとのことだった。私は、シュラフカ



(理源大師像 聖宝ノ宿跡)

になっていた。テント泊りはさぞ寒かったことだろう。

11/6日(土) 高曇り時々晴

弥山小屋 7:15-7:50 八経ヶ岳 7:55-8:30 弥山小屋・弥山神社往復参拝・

弥山小屋 9:00 発-9:50 狼平 10:05-ナベの耳 11:10 通過 12:20 栃尾辻 12:40-門前山経由 15:30 天川川合着-16:15 バスで下市口駅へ近鉄奈良線で京都 18:00 頃着宿泊



(弥山の標識・弥山小屋の前で)



朝食を終えて八経ヶ岳を往復する。道は小屋から少し下り、登り返すと頂上である。近畿地方で一番高い山とのことである。往復する時間は1時間程、生憎高曇りであったが霞む北には、行者還岳、山上ヶ岳の山並みが観て取れた。帰り際に弥山への鳥居をくぐり天川奥宮に下山の途に就く。

弥山からの下りはなだらかな尾根道を狼平への道を辿る。途中にはオオヤマレンゲを鹿から守るための柵を越えて行く。

(国見八方睨みから日ノ出)

弥山川の河原に降り立つと狼平の避難小屋立っていた。立派な小屋で清流にはイワナが泳ぎ釣り人も入渓してくる様だ。ここに地元の単独の人が居て、谷沿いを遡行してきたが、ルートが不明瞭な部分もあり、途中で幕営したとのことだった。車を熊渡に於いてあるので良かったら、最寄りの駅まで送りますよと親切に言っていたが、下るルートが谷沿いで歩くペースも違うので迷惑を掛けるといけないので丁重にお断りした。この先は、弥山川を登り返し頂仙岳を巻き、ゆっくり下ってゆくと栃尾辻に着く。ここには壊れかけた避難小屋がある。栃尾辻から長い尾根を2時間程の行程で天川川合への道下ってゆく。途中にある門前山あたりからは昨日登って来た御手洗溪谷の紅葉と車道が遥か下に見得て川沿いの山々が紅葉に埋もれていた。



(八経ヶ岳から北に聳える大峰山脈の山々)

やっと天川川合の町中に着く。吊り橋を渡ってバス停に着くが街中には人氣が少なく、本当に奈良県の山深い町なのだと感じた。近くには洞川温泉や旅館街もあるそうだが、今回は立ち寄ることができなかった。バス、電車を乗り継ぎ、予約しておいた京都駅前の宿に泊まる。

(八経ヶ岳 頂上標識)



(橋尾辻の避難小屋)



(狼平の避難小屋・静かな良い場所だ)



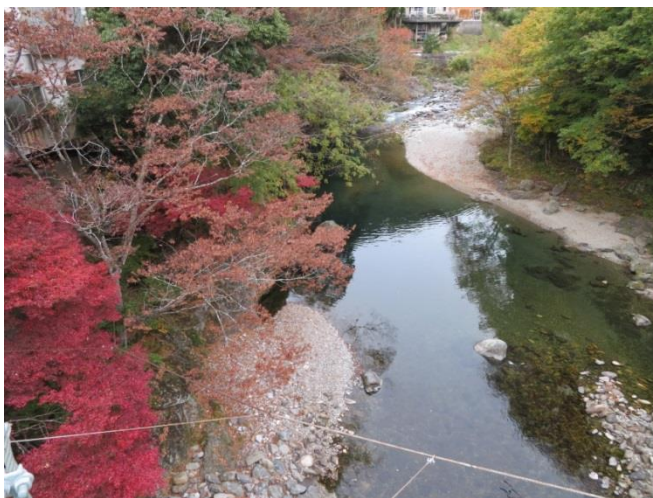
(紅葉真盛り)



(なだらかな山道を天川川合へ)



(ススキ越にみたらい溪谷沿いの紅葉)



(吊端を渡って溪谷沿いの紅葉)



(バス停前の標識)

11/7 日（日）京都 11:01 発新幹線--品川乗換え-京急で 15:00 帰宅

2021 年 11 月

記録

石川 誠